

店土行程記

一

2866
4-1

學大田稻早
館書圖
庫文田內者托寄
號二五第書托寄
號14第
册1第



門部
號 2866
卷 1-4

京都府立総合資料館蔵

唐土行程記序

僕蚤歲得_レ見_ニ清君錦先生_一于今殆三十

年矣。僕雖頑愚不足以知_ニ先生_一而奉_ニ謦

咳_一承教誨之日。不為不久竊_ニ覩_ニ先生_一幼

而穎敏長而醇粹。上究六籍下涉百家。潛

心默記。理會義從。故論文屬_ニ辯_一觸_ニ類_一揭_ニ例_一

森嚴精密。循軌守_ニ法_一疑者必闢_ニ辨_一者必證_ニ證_一

不_ニ譁_一衆要譽不眩俗_ニ飾_一說_ニ先生_一之學可

大正七年九月廿四日
內田宗子氏贈

謂擇焉而精者矣。先生而居常謂生徒曰。老夫不文。抑亦於斯文也。必持三尺。先生尤精史學。其談史。唐虞迨明清。若目親見其世焉。其旁及異域輿地。亦若足親履其地焉。而人稱先生以多學宏材。則先生謝不當焉。蓋其有所不欲而然。先生頃得朝鮮崔溥漂海錄。讀之。乃曰。文雖朴陋。其於異域風土。亦可以證也。因以

國字譯之。其所不盡。附記其考。以之原文。文辭條貫。燦然改觀。其考中所論。有關係甚大者。豈止風土云乎哉。至其論考地域。雖足親履其地者。亦恐能若是晰然。諸門生令姪世典及僕。請梓之。先生微笑曰。是何等書。亦勞諸賢。刻成。僕謹序之。其更名。唐土行程記。先生已附說于卷首云。明和己丑春二月望。柚木太玄拜撰。



Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '神中' and '神中'.

漢人所業。載藉浩繁。童而習之。致之矻。以至老大。而能詣其精者無幾。况我東土。逖在海表。山川邑居。言語民俗。彼自彼。家自我。則古今載藉。彼自為彼。而我求之於其中。不亦至難乎。或有大言者曰。吾能提要初玄。又曰。以神運之。且為千古。以余觀

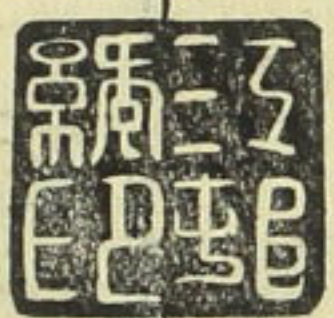
之。均之於等已。必也詳于彼。而後
有得于此言。苟欲見詳。所由
固多方。而地理亦其一端也。乃
有如明一統志。山川邑居。名數
並集。亦彼自舊。彼我。見不能無
憾也。府曰府。縣曰縣。府固大
于縣矣。固可知也。府之異縣。各
有大小。而有縣及大于府者。大

而殷實。閭閻撲地。延屬數十里。
小而凋弊。煙火蕭條。茅屋數十
家。此未可知也。突兀而臺去。曼
延而蔚者。梁曰之山。可以方舟。
可以揭厲。梁曰之川。未可知之
洋也。唯如漂海錄。固不然也。蓋
朝鮮之於漢土。猶我之於漢土
也。其所見聞。與彼自為。彼去不同。

於是彼土山川邑屋言語民俗。一
見瞭然。莫有所遺。堂上不愉快
乎。書肆某請弟去錦。鈔略其
書。諱便勿學。又求余題言。余
謂近時學者淪薄。日趨捷徑。
書肆逆意投好。務為利涉。
此系割裂崔溥成書。殊以可
惜。雖然。不我賊和柳。只何以為

楮捲之用哉。此君錦之意也。
明和己丑秋八月

平安江邨後題



目録

唐土行程記總目錄

一 朝鮮國起本

一 朝鮮奉唐土正朔

一 崔溥使濟州

一 海上逢風漂流 附海鯨圖

一 下山逢賊

一 崔溥捨船上陸

一 千戶許清

一 第一次挑渚所吟味

一 第二次同所吟味

一 寧波府

一 第三次紹興府吟味

一 杭州

一 第四次杭州吟味 附西湖圖

一 蘇州

一 鎮江府 附揚子江圖

一 揚州府

一 淮陰驛 附黃河運河

一 龜山 附無支祈圖

一 呂梁洪百步洪

一 歌風臺

一 兗州府 附孔林圖
附泰山

一 山東響馬

一 魯王

一 釋奠

一 潞沙

一 北京 附圖

一 朝覲

一 拜賜

一 崔溥病卧

一 北京出發 附南海西海

一 謝恩使

一 寧遠衛 附吳三桂

一 山海關

一 孤竹國

一 廣寧府

一 賀聖節使

一 僧戒勉

一 遼東 附渤海國

一 鴨綠江

一 義州

一 江南江北風土文物

附言六條

一 吾國ニテ唐ト云ハ朝鮮ノコトゾ。今俗間ニ唐トイフヲ
 ハ唐土ト云ヘリ。是吾國ノ正訓ゾ。兩伯陽モ左イヘリ。今
 ノ人ハ唐唐土ヲ混稱シテ。吾國ノ正訓ヲトリ失フ。凡ソ
 正文ニハ漢トカ唐トカ書ベシ。平假名片假名文ニハ決
 シテ唐土ト書ベシ。藝苑談ニ唐土ト書タルヲ。予が文
 ノ拙トコロト。誹り笑シ人有シトカヤ。吾國ノ訓話ニサ
 ヘ昧ケレバ。ミヌ唐土ノ書ノ沙汰。サゾト推量セラレ。
 一 職原抄ニ玄菟郡アリ。見ベシ吾國ノ古ハ唐土ヲモ蕃
 戎トヨバセ玉ヒシコトヲ。イカナレバ。今ノ人ハ吾國ヲ

倭俗トミツカラ鄙シノ。彼輩我トヨバセ玉ヒシ國ヲ中
華中夏ナド、尊稱ス。吾國ノ法令ニ畔ノ甚シキトイフ
ベシ。

一唐土歷代ノ地名官職ナド。代カハレバ必ズ變ズ。或ハ一
代一世ニモシバク變更ス。予幼年ヨリ歴史ヲ好ム。歷代
ノ地名官職ノ沿革。十二七八ヲ暗記ス。然レ凡コレヲ譯
スレバ。甚ク長ニシテ。且却テ世人ノ解難ヲ恐ル。故ニ此
書ニ於テハ。一圓ニコレヲ略シ。只其義ノチカキヲ主ト
シテコレヲ書ス。人別改ノ役。某ノ城下。見付門。代官ナド
ノ類コレゾ。其餘モコレニテ推テ知ルベシ。是予世人ニ

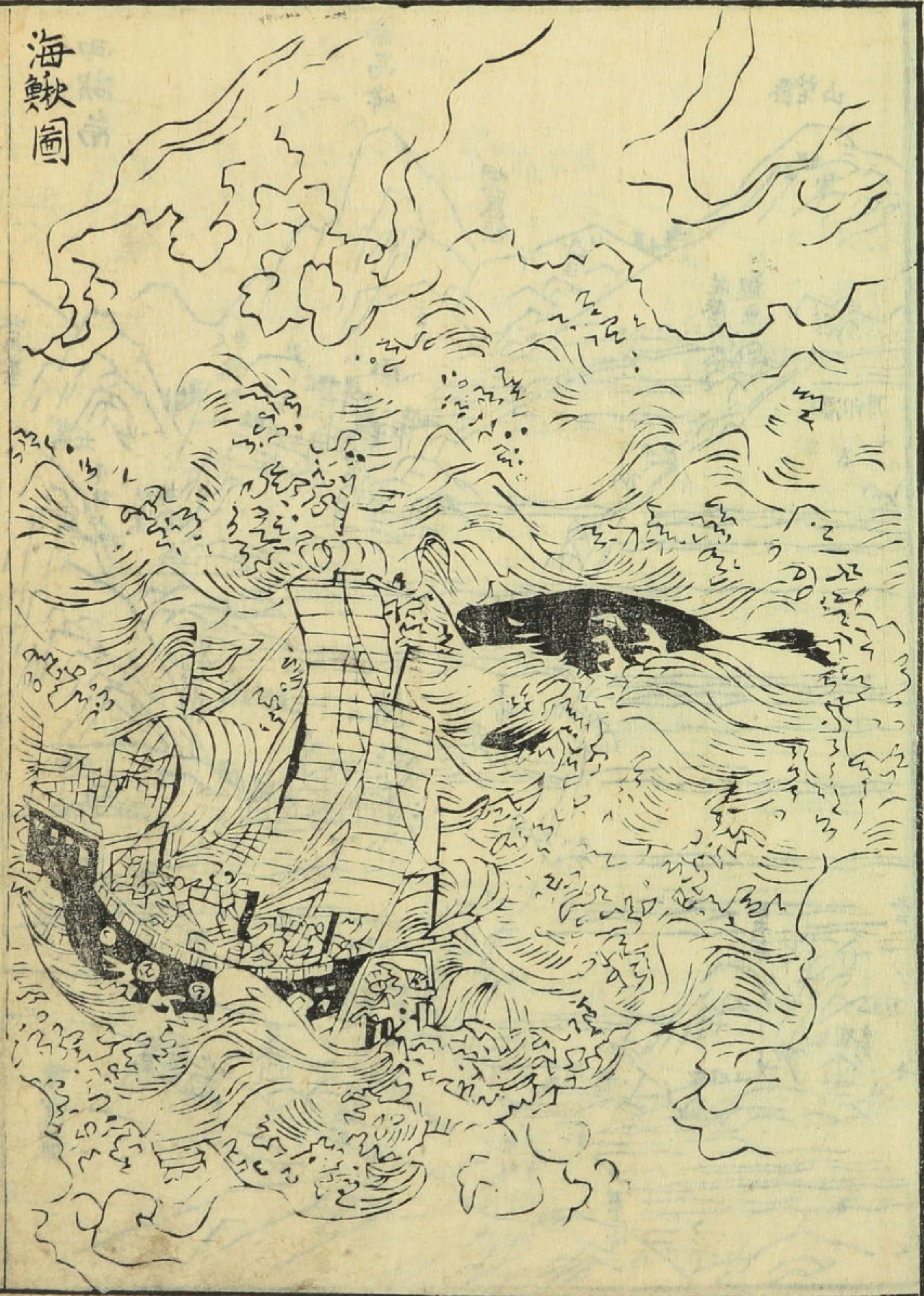
於テ。釋氏ノ所謂老婆心ナルゾ。抑亦和盤托出トモ云べ
シ。

一崔溥唐生人トノ問答。十ガ九ハ筆語ナルゾ。其中ニ筆語
ナラザルアレバ。其ワケヲコトハリオク。

一東國通鑑ノ中ニ。崔溥ガ名元アリ。史官ニアツテ脩史ノ
一員タリシト見ユ。然ルニ漂海録ノ文拙朴甚シ。海東諸
國記ハ。是ニ比スレバ。文頗ル佳シ。

一片假名ノ書トイヘ凡。書方幾段モ有ベシ。此書ハ譯文ニ
テ。蒙士ヲシテ解易カラシムルヲ主トスルヲ以テ。淺近
ニ涉ルヲ辟ズ。若夫記文ノ由。碑文ノ状ナドハ。片假名ト

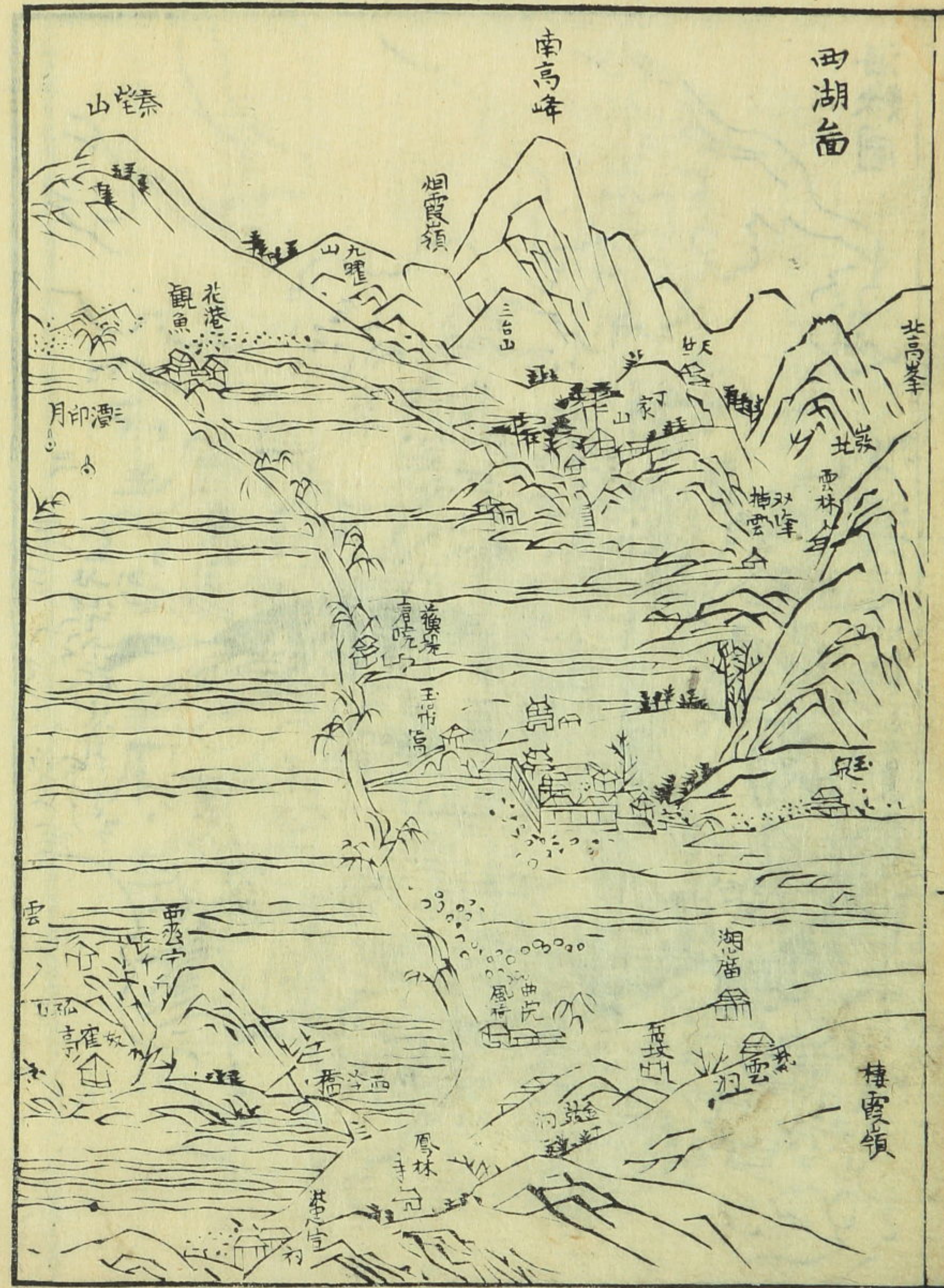
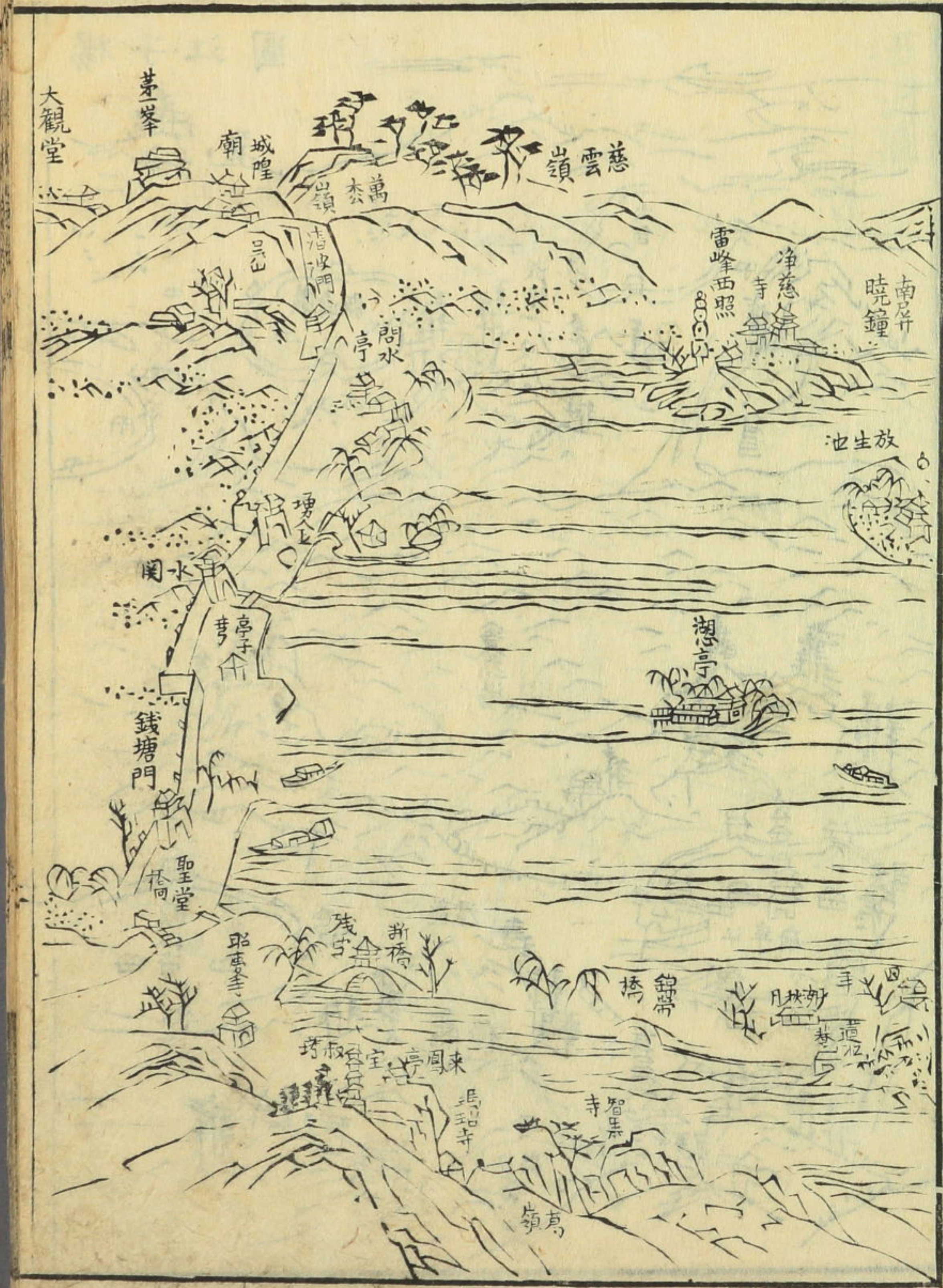
海鯨圖



雖モナラ向上ノ手段アルベシ。凡ソ文字ノコトハ各ソノ
モノニ隨ヒ各其法式アリ。是ヲ知ザル人トハトモニ執
文ヲイフニタラズ。

明和己丑之春三月

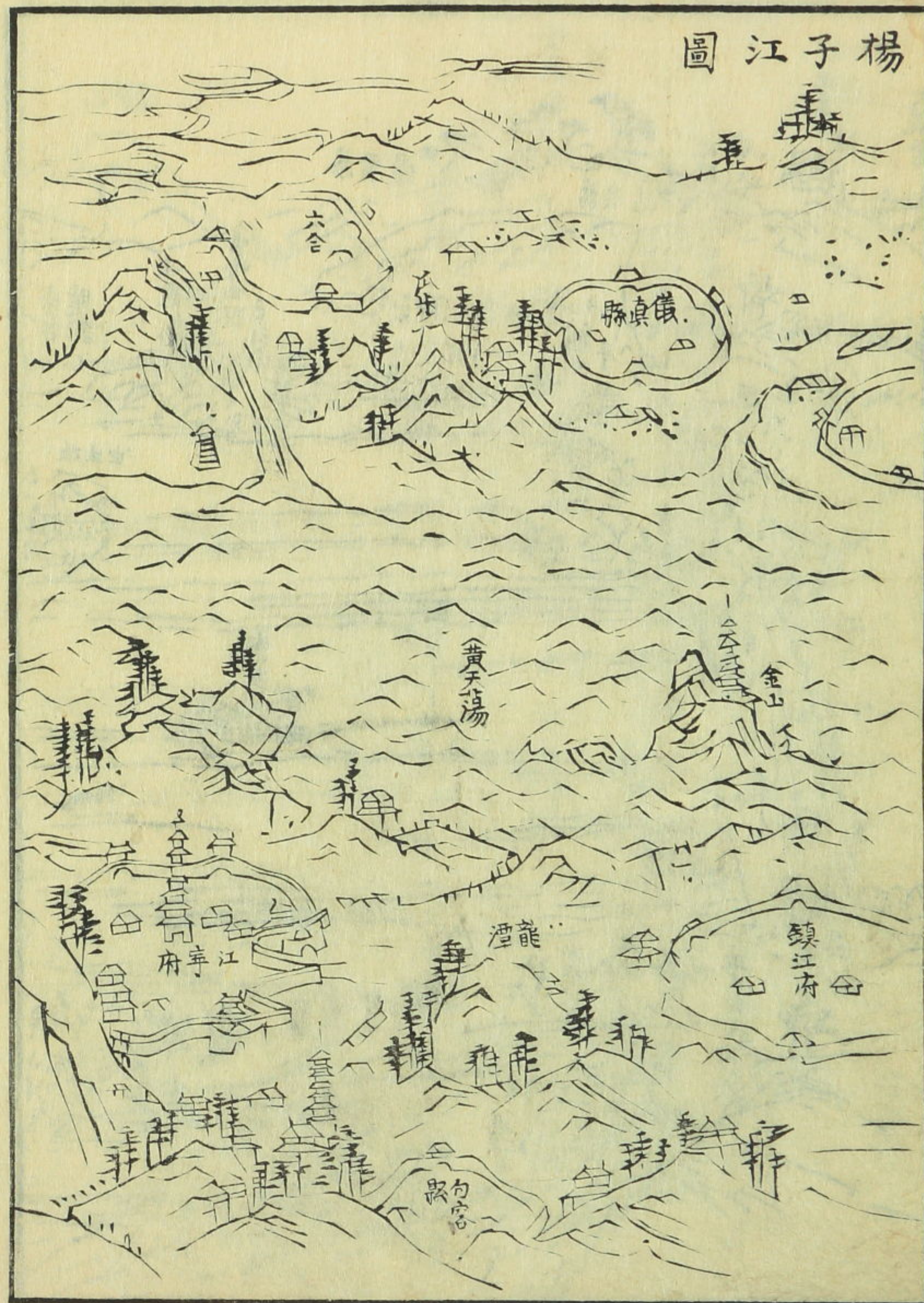
清絢識



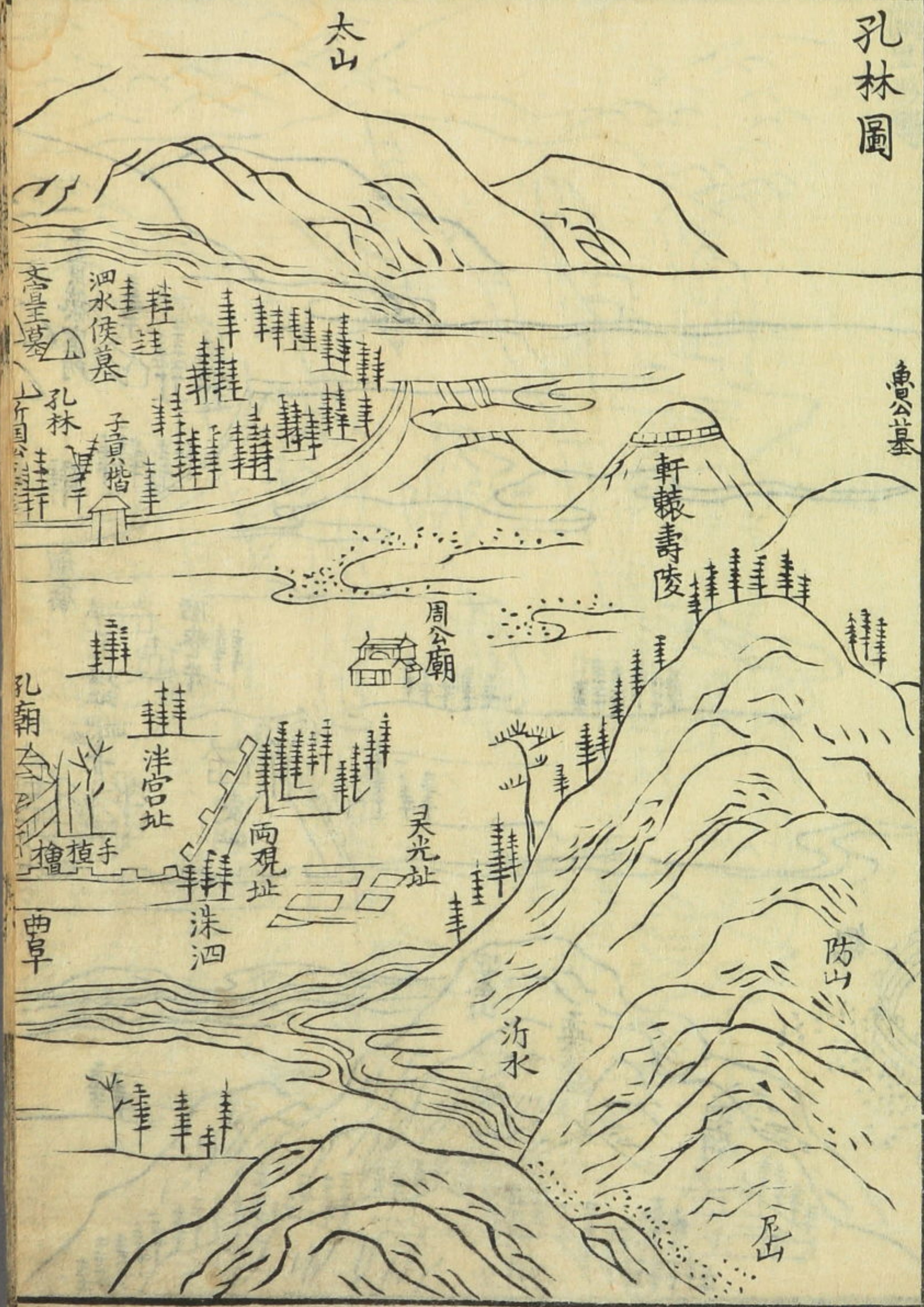
黃河圖



楊子江圖



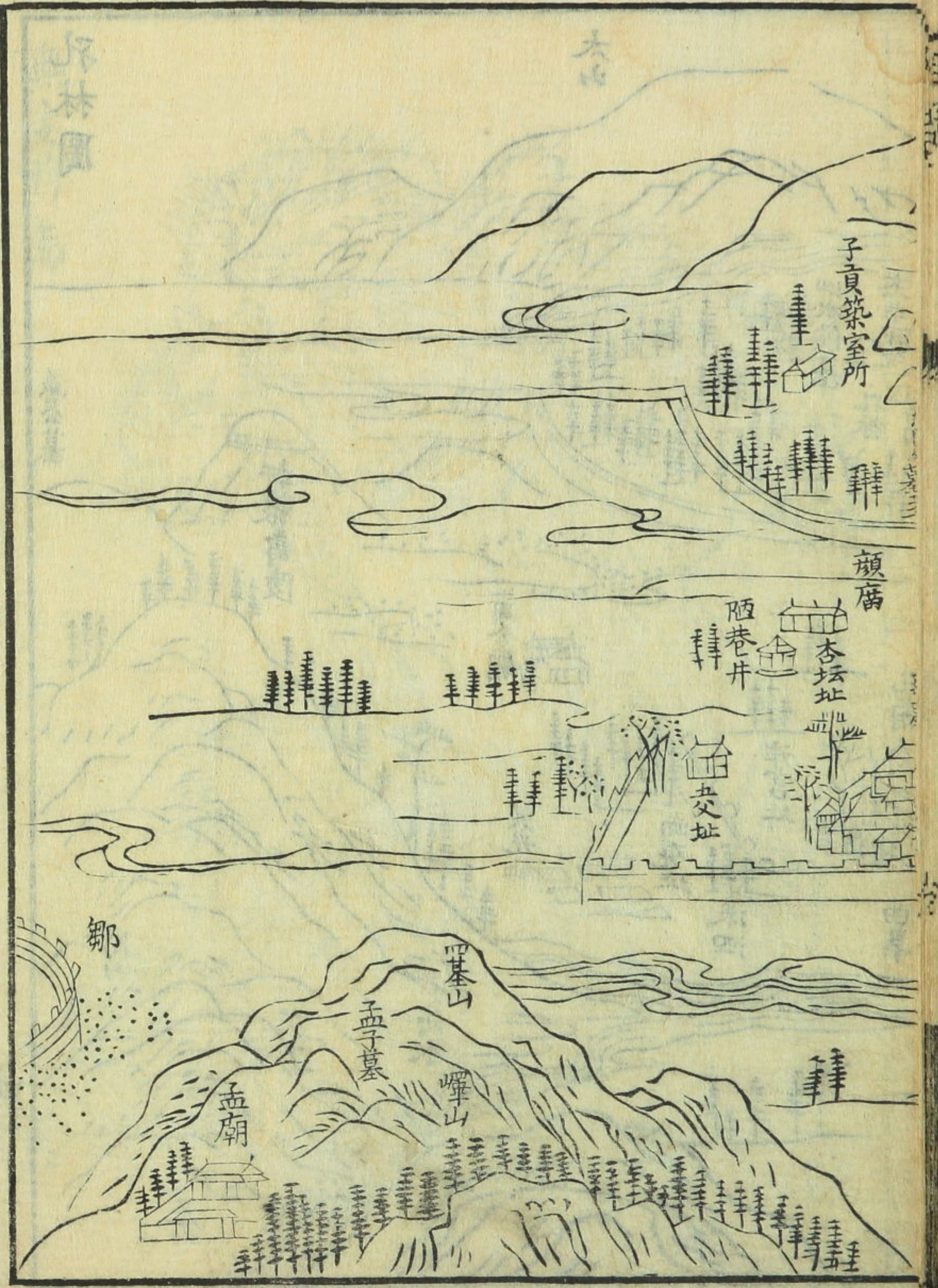
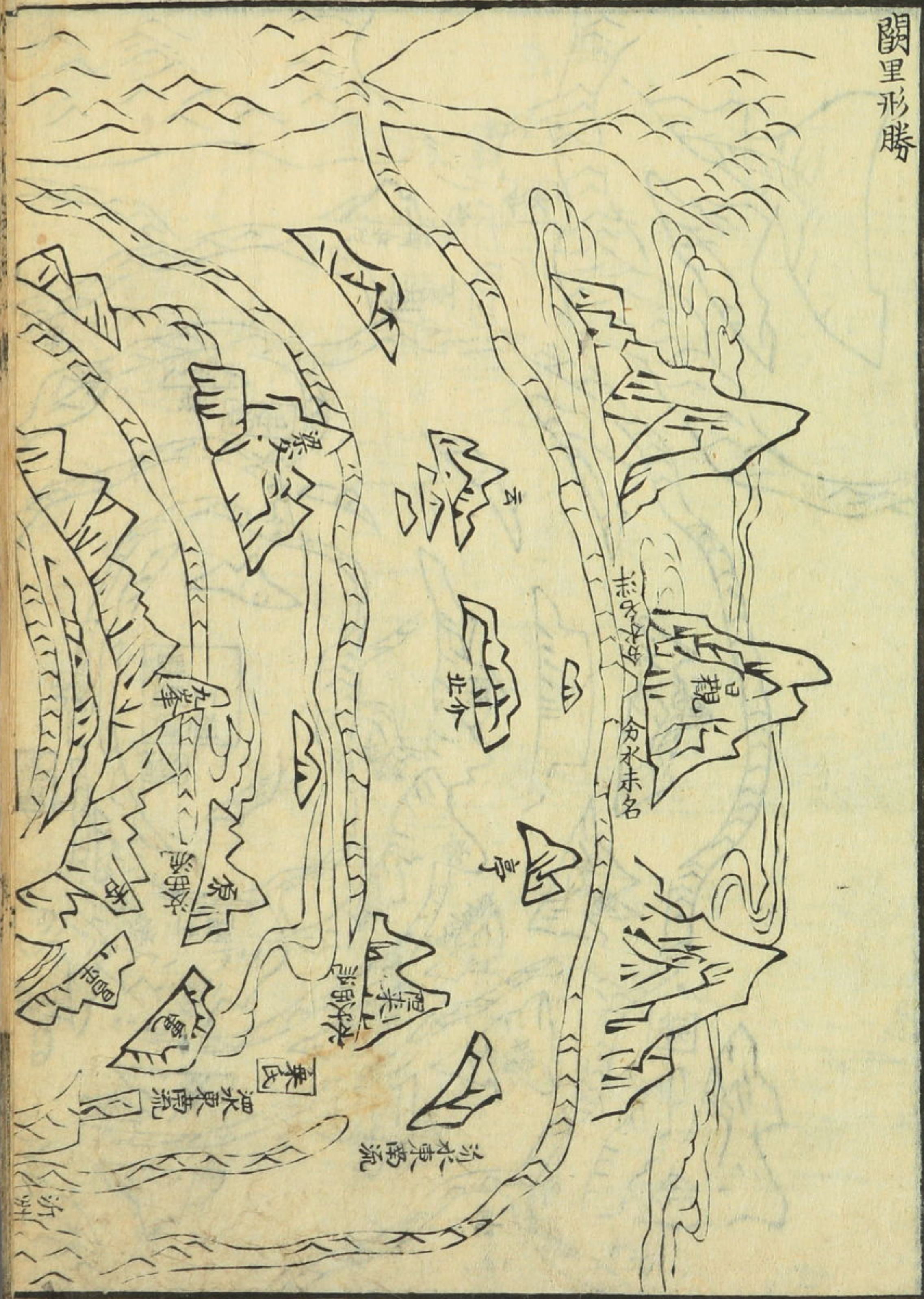
孔林圖

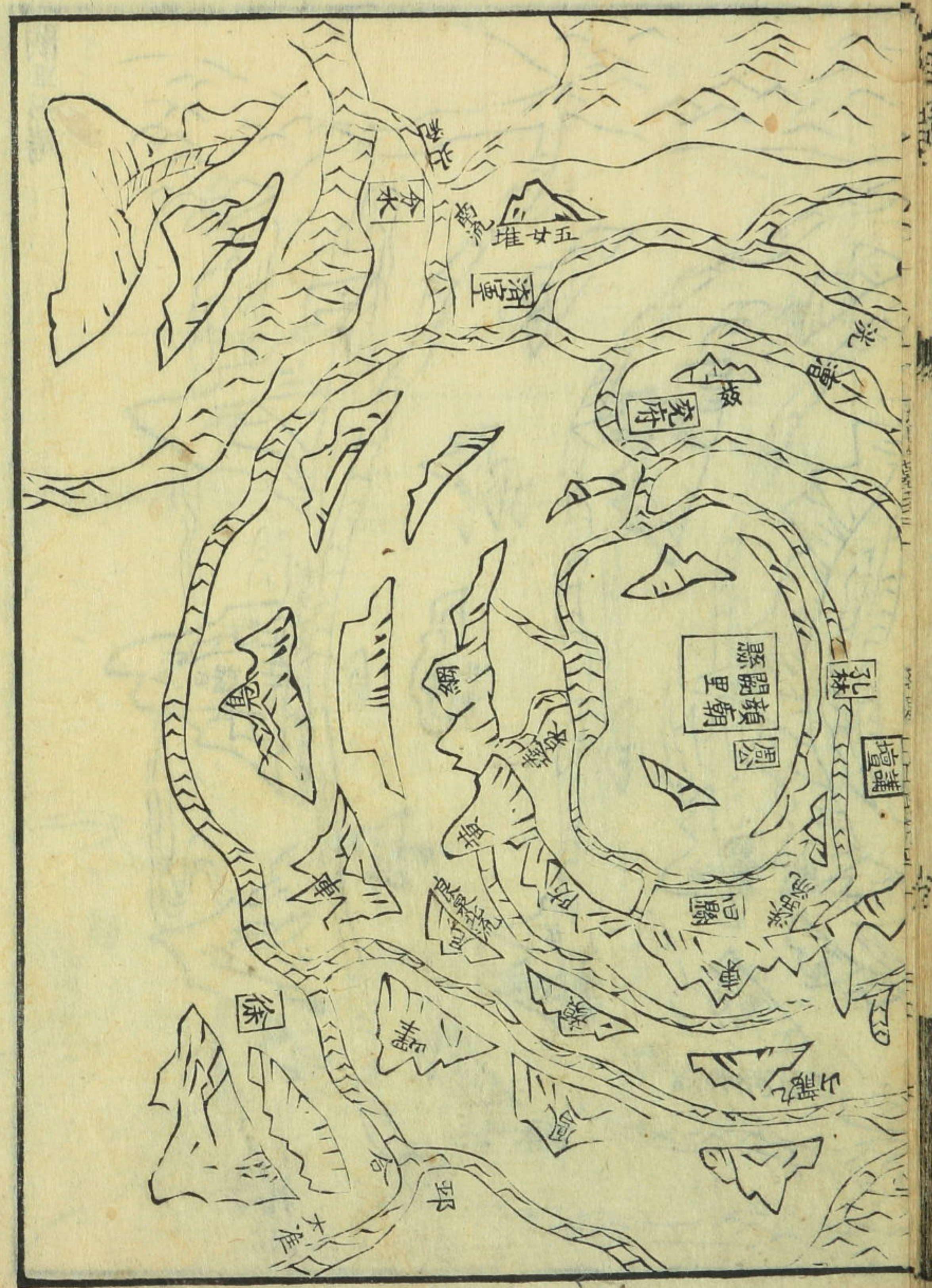
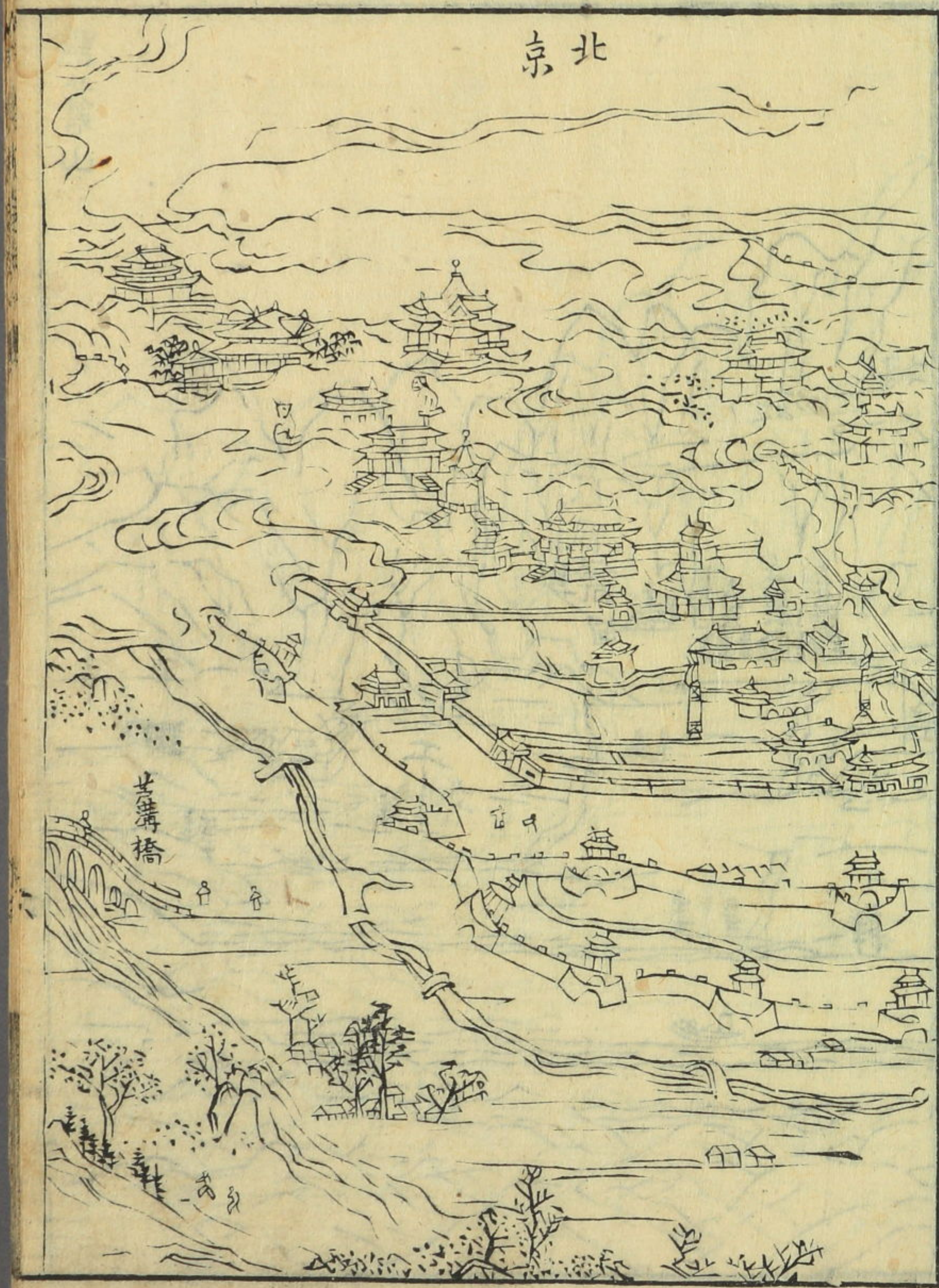


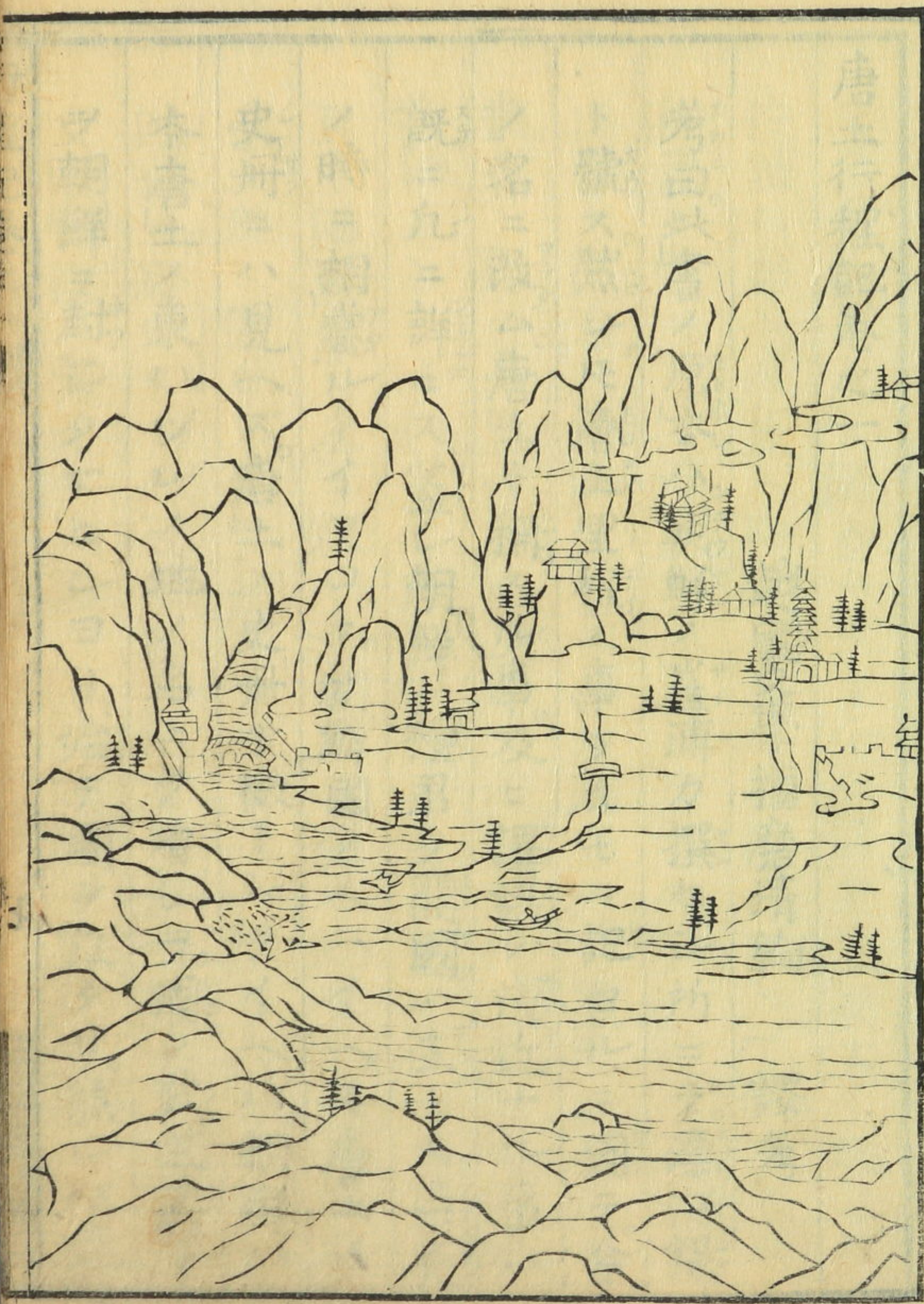
無支祈畜



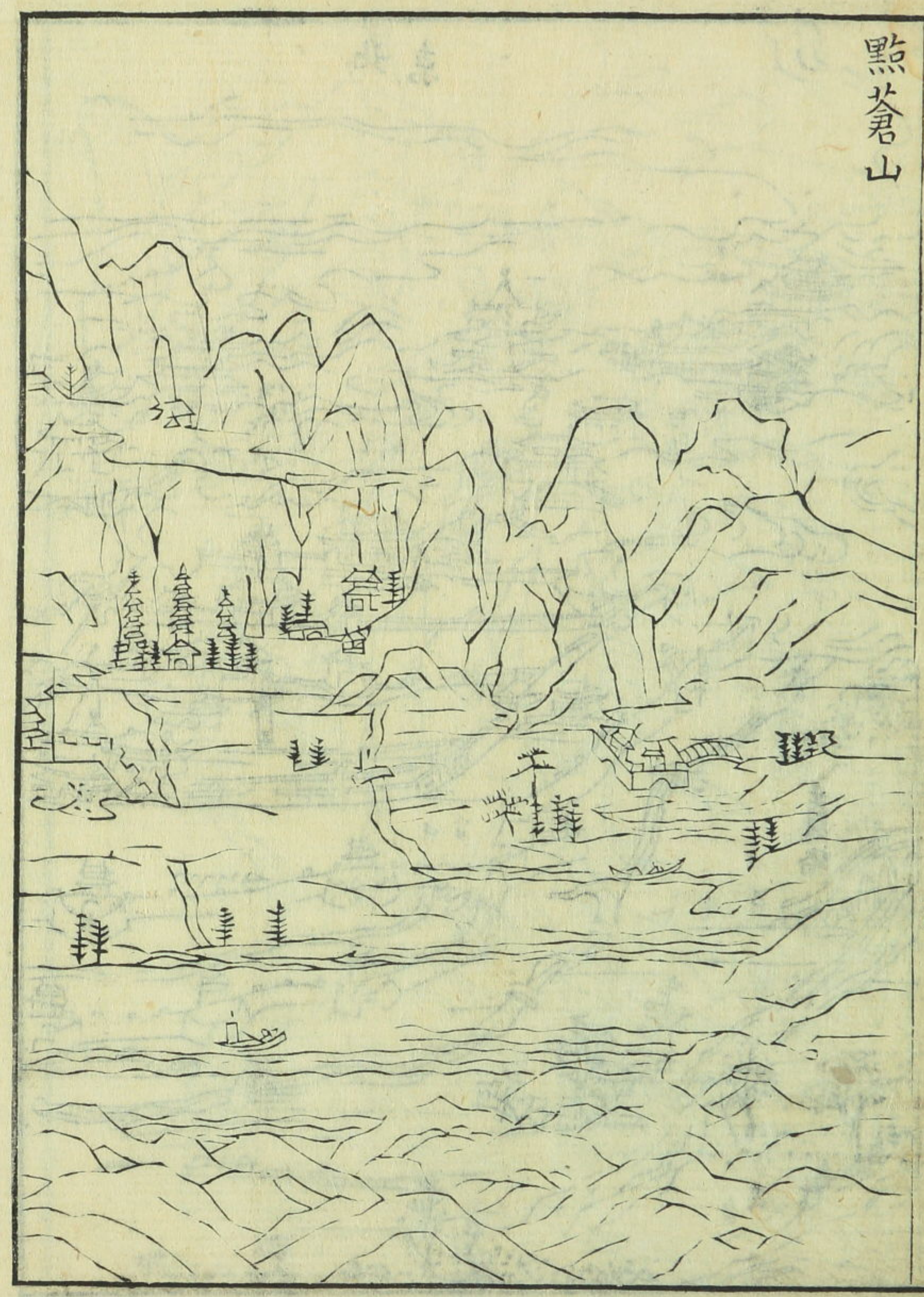
關里形勝







唐
史
冊
卷
之
九
之
一
點
蒼
山



點
蒼
山

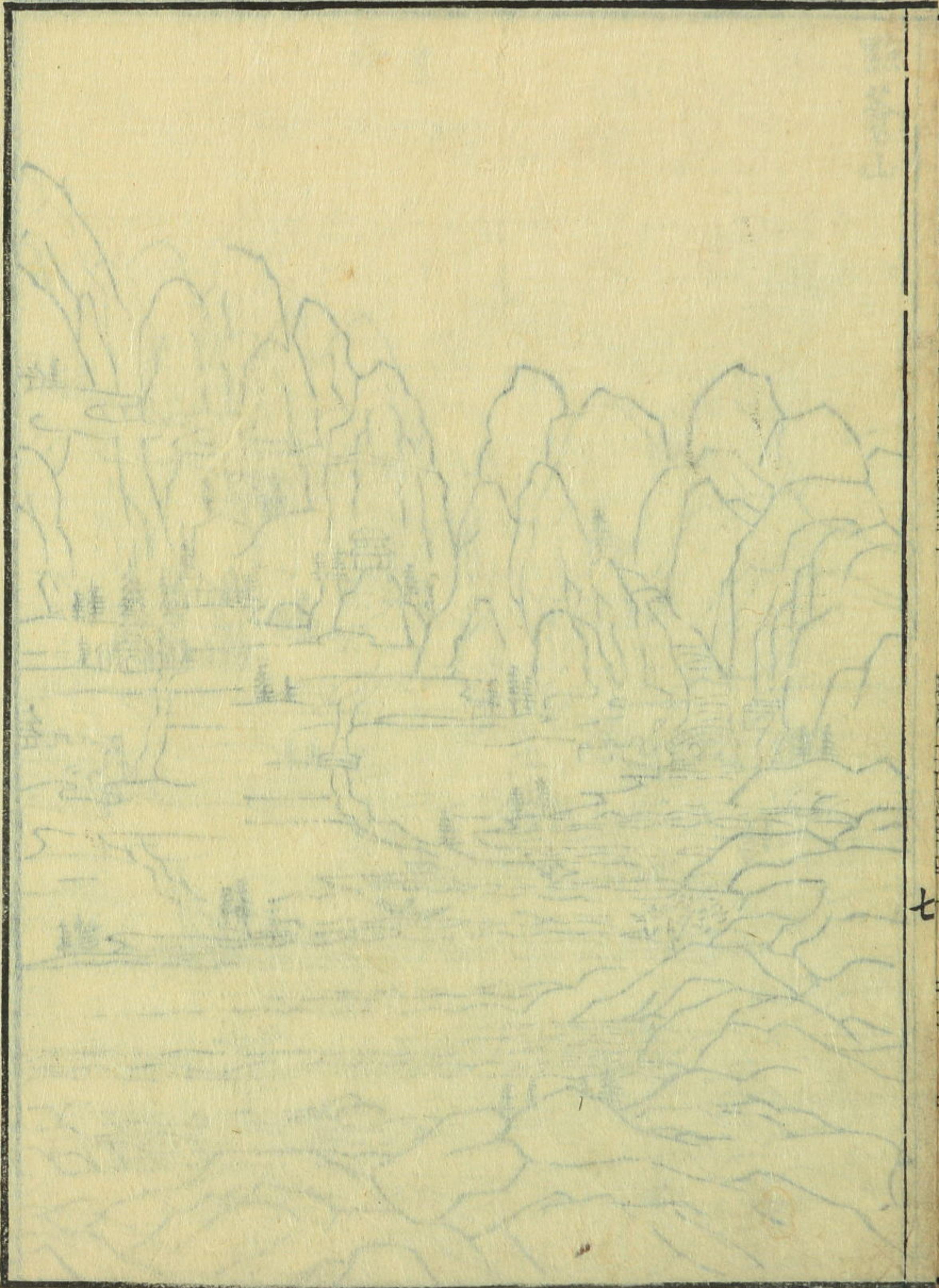


唐土行程記卷之一

越國文學播磨清絢

譯考

考曰此書ノ原本ハ朝鮮ノ崔溥ガ撰セシ所ニテ漂海録
ト號ス然レモ唐土里程ノ事ヲオモニ記セルニ因テ今
ノ名ニ改ム唐土ト稱スル事及ビ譯語ノ淺近ナル事ハ
既ニ凡ニ詳ニス蓋シ朝鮮ハ檀君ヲ開國ノ主トス帝堯
ノ時ニ相當ルトイフコト朝鮮國ノ人ハイヘモ唐土ノ
史冊ニハ見ヘズ唐土ノ史冊ヲ徵トシテイヘバ朝鮮ハ
本唐土ノ東ハツレノ地ノ名ニテ有シヲ周ノ武王箕子
ヲ朝鮮ニ封ジタマヒシヨリ始テ國ヲ立タリ然レバ先



朝鮮國ハ箕子ヲ開國ノ主ト心得テ宜シ。箕子ノ子孫
朝鮮ヲ保ツコトハ百年餘ニ及ブ。其後衛滿トイフモノ。
唐土燕ノ國ヨリ往テ篡テコレヲ取ル。漢ノ武帝ノ時ニ
至リ。朝鮮漢ノ為ニ滅サル。其後又國ヲ立テハ辰韓馬韓
弁韓トイヒシ時アリ。新羅百濟高麗トイヒシ時モアリ。
隋唐ノ頃ハ高麗ノ高氏尤強ク。新羅ト俱ニ百濟ヲ滅ホ
ス。唐ノ高宗ノ時高麗唐ノ為ニ滅サル。新羅獨強シ。唐ノ
昭宗ノ時ニ至テ。新羅ノ庶屬弓裔ガ兵起ル。明年甄萱ガ
兵起ル。後ノ高麗ノ太祖王建ハ弓裔手下ノ一將タリ。カ
クテ弓裔ハ王ヲ稱スルコト十八年。王建謀反ヲ起シ。弓

裔ヲ弑メ自立ス。甄萱ハ後ニ新羅王ノ味方トナツテ高
麗ト敵ス。甄萱四十四年高麗ノ為ニ滅サル。高麗王王建
ハ右ニイフトヲリ弓裔ガ臣下ニテ。弓裔ガ位ヲ篡テ新
羅ヲモ滅シ。三韓ヲ併セ領ス。東國通鑑ニ載スル所。弓裔
甄萱ガ事。王建ガ事。李仁人ガ事。俱ニ曲筆誣言甚多シ。今
謹テ春秋ノ法ニヨリ正スニ討賊ノ義誅意ノ法ヲ以テ。
ソノアウマシヲ書記ス。高麗ノ王氏宋ニ至リ。唐土ノ年
號ヲ奉シ。王爵ヲ受テ旗下ノ國トナル。陸路ハ契丹ノ為
ニ隔ラレタルニ因テ。海ニ航シ朝貢ス。其後金ノ屬國ト
ナル。元明ヲ歷。今ノ清ニ至テモ。唐土ノ年號ヲ奉シ。王爵

ヲ受ルコトハ變ルコト無し。但シ元明清俱ニ燕京ニ都ス。朝鮮へ陸路遠カラザルニ因テ。唐土へ朝貢ノ禮式ハ。宋ノ時ニ校レバ。叮嚀ナル事ハ數倍ス。冬至元日天子ノ誕生。日。其外吉凶ノ事ノ度ゴトニ。使者ヲ唐土へ差出ス。其外ニモ臨時ノ使者。大方毎月ホトニアリ。重キ使ハ朝鮮ノ宰相來テコレヲ勤ム。清ニ至テハ遼陽ニ盛京アレバ。猶更道近シ。禮式ハ明ヨリモル叮嚀ナルベシ。右前後ノ高麗。高氏王氏ノ二ツニテ。高氏ノ高麗ハ。三韓ヲ一統セルノ号ニアラズ。王氏ノ高麗ハ。宋ヨリ明ノ初マテ。三韓ヲ一統セシ國號ナルゾ。今ノ李氏ノ朝鮮モ。三韓ヲ一

統セルノ國号ト知ベシ。明ノ初メニ至テ。宰相李仁人トイフモノ。其主王氏ヲ滅シテ高麗ヲ篡ヒ。國号ヲ朝鮮ト改メ。以テ今日ニ至ル。

○明ノ第八主 建文帝景泰帝 憲宗ノ成化二十三年丁未秋

九月十七日。朝鮮全羅道羅州ノ人崔溥字淵。錦南濟州人別改ノ役ヲ奉テ發足ス。彼濟州トイフハ。朝鮮ノ地ヲ離レタル南方ノ島ニテ。海上凡ソ九十里許リ有リ。朝鮮國ノ流罪人多クハ此島ニ流サル。其外連逃ナド。往々潛リ住テ。風俗甚惡キ所ナレバ。人別改モ。外ノ地ヨリハ嚴密ヲ加ヘテ。海上百里ニ足ラ子氏。以ノ外ノ大事ノ場ニテ。破船難

船度にあり。凡ソ何方ニテモ。冬ノ渡海ハ最モ大事ナルニ。殊更左ノ如ク大事ノ場ヲ渡海スル故ニ。彼崔溥モ朝鮮國海南縣トイフ所ニテ。久シク候風シ最上ノ天氣ヲ見澄シ。十一月十日ノ朝出船ス。濟州新任ノ牧司牧司ハ。唐土ノ許熙キモ同船ス。十二日ノ夕方濟州ノ朝天館トイフ所ニ着岸着岸ス。是ヨリ牧司ハ州ノ政事ヲ理メ。崔溥ハ彼人別改ノ公用ヲ勤ム。カクテ明ノ憲宗ハ。成化廿三年ニ殂シタモフ。太子即位アリ。此ヲ孝宗トイフ。年号ヲ弘治ト改ム。弘治元年戊申正月晦日。崔溥ガ家來莫金トイフモノ。在所ヨリ濟州へ來テ。崔溥ガ父崔澤格死去ノ由ヲ計ク。唐土ノ式法ニテ。凡

ソ官人ハ。父母ノ喪ニ遭ハ。即時ニ其由ヲ届ケ。其日ヨリ官ヲ罷メ。忌中ヲ勤ム。朝鮮モ唐土ノ命ヲ用ユルナレバ。崔溥モ其日ヨリ喪服ヲ着ケ。職事ヲ止メテ。歸路ノ支度ヲナス。成化弘治ト年号改リ。年モ易レ氏。其實ハ。十一月十二日ニ到着シ。正月晦日ノコトナレバ。日數タゞ八十日バカリ。其内ニ勤メ向ノ役義モイマタ半ミナルニ。歸リ支度ヲスルナド哀情ト多用ト、リマセタリ。閏正月朔日。牧司許熙早朝ニ來リ訪ヒ。萬端ノ世話介抱ヲナス。濟州ニ水精寺トイフ寺アリ。寺僧智慈ガ所持ノ船甚丈夫ニテ。シカモアシハヤク。官船ニ勝レルヲ以テ。牧司ヨリ言付ケ。河口へ乘回サ

セ置キ崔溥カ渡海ノ乗船トス。濟州ノ諸役人并ニ崔溥ガ
下役支配下ノ者共皆々來テ崔溥ガ忌中ヲ見舞アリ。使者
ヲ以テイヒヲクルモ有リ。

○二日陰ル。早天崔溥發足シ。河口ノ候風館ニ至ル。牧司ヨ
リ使者アリ。其外別ヲ送ルモノ衆シ。今日崔溥其下役程保
金重二人ヲ牧司ノ所へ差遣シ。公用ノ諸帳面諸書付等ヲ
皆々渡し贈ラシム。

○三日尔チ陰リ尔チ雨降。東風吹添テ。天氣晴明ナラズ。別
ヲ送ル者ドモ。或ハ乘船ヲ勸ム。或ハ天氣ヲ見合ヨトイフ。
其說一定ナラズ。崔溥遂ニ意ヲ決シテ出船ス。大火脱島ヲ

過ギ。愁德島ヲ過テ。西ニ向テ馳テ行ク。風弱ク雨起リ。海氣
晦冥ニシテ。イトゞ心ボソシ。楸子島ニ船ヲ繫ントスレバ。
折節引沙矢ヲ射ルガ如シ。大船中々自由ナラズ。日已ニ暮
又星サヘナクテ。四方暗闇トナル。崔溥船中ノ人ニ下知シ
テ。帆ヲスリ擄棹ヲ以テ岸へ寄ントス。船中ノ者共崔溥ガ
候風セズシテ出船セシヲ憤リ。カラ出シテ擄棹ヲ勤メズ。
船次第ニ推流サレ。艸蘭島ニ至リ。西岸ニ倚テ鉄猫ヲ下シ
テ泊ス。夜已ニ半ナル頃許尚理トイフモノ。崔溥ニ言ケル
ハ。此島ハ東風ヲハ防クベケレ。三面ニ風ヲ承テ。船ガ、
リスベキ場所ニ非ズ。今風既ニ北ニ直ル。久シク此所ニ泊

ルベカウズ其上先程ヨリ船次第ニ流レ出ヅ鉄猫切タル
事モ有ベシトイフ鉄猫ヲ上サスレバ果シテ切タリ船ヲ
棹サシテ岸ニ着ントスル中北風暴ニ吹起リ何方トモナ
ク吹漂ス風雨益強ク波濤大ニ起ル船中ノ人股栗ザルハ
ナシ。

○四日大雨大風雷ノ飛コト鉛丸ノ如シ大濤間モナク打
カケ本帆モ彌帆モ打破ラレ二本ノ檣ニ風激シ船已ニ覆
ントス船頭其時鉞ヲ以テコレヲ打切り船中ノ有ル所ノ
薦席ナドヲ船ノ舳艫ニ附テ浪ヨケトス午頃ニ雨微シク
霽ル北風東ニ回リ船ノ馳スルコト矢ノ如シ見ル中ニ已

ニ西海ニ漂入ル遙ニ東北ヲ望メハ黒豆ノ大サノ物ヲ海
波縹渺タル中ニ見ル船頭ガ曰アレハ若クハ黒山島ニテ
有ルベシトイフ其外ニハ天水相接リ四方ニ島嶼村里ナ
シ人皆船中ニ倒レ卧シテ命ノ盡ルヲマツ崔溥下知シテ
アカヲカヘ隙ヲ塞ガシム軍卒高固トイフ者アリブツヤ
キテ曰濟州ノ海路甚險惡ニテ往來スルモノ皆候風シテ
出船ス然ルニ此度ハ一日ノ天氣ヲモ見合セズ以テ此場
ニ至ル物好キトイフベシト餘人皆曰ナルホト丸様ノ勢
既ニカクノ如シアカヲカヘ隙ヲ塞クトモ何ノ益アラニ
トテモ死スル命ヲ樂ニ死ニタカレバヤトイフテヲキ

アガラズ。宋真トイフ者。大聲ヲ揚テ怒罵テ曰。メシドウ
ニモ長壽セル船カナ。トテモワレルナラバ。ナゼニ早クワ
レサル。程保ガ曰。濟州ノ人ハウハベハ律義ヲシク。心ノ底
甚癡シク。邪智ナルニ因テ。其申ス所カクノ如シト。崔溥モ
已ニ死スル事ヲ覺悟シテ。船中ノ人ヲ數ルニ。凡ソ四十三
人アリ。ソノ時諸人ニ告テ曰。予父ノ喪ニ赴ク空ヲ飛デモ
行タク思フニヨリ。候風ヲセズシテ此場ニ至ル。今船ナラ
丈夫ニシテ。大ナル破損ナシ。石ニ打當テ。淺瀬ヘ馳上ケサ
ヘセズバ。幸ニ風波理タウバ。存命スベシキニ。更モ無シ。皆
氣ヲ死ナサズシテ。吾下知ニ從フベシトイフ。此ニ於テ許

尚理等十餘人起立テ働キケリ。其夜モ風雨ニテ。高浪間モ
ナク船ニ打入ルヲ。コノヲ詮度ト防ギケル所ニ。夜四ツ頃
ニ。大山ノ如キ濤アヤマタズ船屋形ヘ打附ルニ。船シハク
トシテ半沈ム。此時ニ方テ身ニ着タル衣裳船中ノ諸道具。
殘ラズ潮水ニ浸サレ。冷氣骨ニ砒ス凍ヘ死セン事。寸ノ間
ニ在リ。崔溥ソノ時李貞ガ手ヲ執リ。程保ガ膝ヲ枕トシ。金
重孝子其左右ニ倚添ヒ首ヲ低テ死スルヲ俟ツ。吳山トイ
フモノ。經テ死セントス。李貞救テコレヲ助ク。巨伊山黄金
等。カラ盡シテアカヲカコ。崔溥モ氣ヲ取直シ。起立テ沾ザ
ル薪ニ火ヲ熨シテ冷氣ヲ防ク。崔溥并ニ下役ノ者モ。銘々

衣裳ヲ脱テ軍卒ニ予フ。軍卒ノ中仇叱廻文、回都終毎山玄
山等ハ均シク死カラ出シ。子シナフアカヲカヘ盡ス。僅ニ
船ヲ取留タリ。

○五日霧立塞リ。咫尺モ見ヘ分ズ。夕方雨降り出デ。夜ニ入
テ止ム。怒濤山ノ如ク。船ヲ推上げ推下ロス。上ル時ハ青天
ニ登ルガ如ク。下ロス時ハ深淵ニ入ルガ如シ。崔溥ソノト
キ忌中ノ衣冠ヲ備ヘ。手ヲ接デ天ヲ祝シテ哀禱ス。船中ノ
人亦皆哭泣シ。天ノ助ヲ求ム。

○六日陰ル。風波微シク静マル。即チ席ナトヲ聚メテ航ト
シ。假ノ檣ヲ立テ、本ノ檣ヲ打折テ鉄猫トシ。東風ニ乘シ

テ西ニ向テ馳ス。忽チ大濤ノ間ニ。恠キ物コソ見ヘタリ。船
ヨリハ四五丁アナタニ。門長屋ノ如キ物見渡シ。二三十間
ホトニ見ヘタリ。沫ヲ吹テ天ニ雨降り。波飄リ濤驚ク。水主
舵取目マセ仕形ニテ物語スルコト無ラシム。良久シクシ
テ沈ミ入ヌ。カクテ數十丁馳過テ後。船頭物語テ曰。アレコ
ソ海艚ニテソロ。サテモ命拾ヒ仕リタルトイフテ悦ベリ。
考曰。クジラハ海艚。或ハ海鯨ト書ク。鯨ト書テモ苦シカ
ラズ。其譯長ケレバ畧ス。近頃板行ノ鯨志トイフ書ニ。鯨
ノ事ヲ逐一ニ書載セタリ。紅毛ニテハ海艚ヲワルヘス
トイフ。大洋中ニ在ル所ノ海艚大サ尋常ノ海艚ニ数倍

スルモ、數十倍スルモアリト。紅毛人語レリト。白石先生ノ書ニ在リ。蝦夷ノ海中ニヲキナトイフ魚アリ。海鱸ヲ吞トイヘリ。往來ノ船海鱸ニ遇ヘバ、殿ト稱シテ恐敬フ。唐土ニテモ、海翁ト稱シ。或ハ大爺ナド、稱ス。然レバカノヲキナトイフ魚モ、ヤハリ海鱸ノ最モ大ナルニテアルベシ。

夜ニ入テ風強ク、船ノ馳スルコト甚速シ。船中ノ人荷ヲ打テ、竜王ヘ奉ル。崔溥止メ得ズ。

○七日陰ル。海水甚白シ。蔡元惠ガ曰。天晴タル日、漢祭山ノ絶頂ニ登レバ、遙西南ノ方ニ、白砂ノ汀有ルヲ見ル。今ヲ以

テコレヲ思ヘバ、白砂ニ非ズ。此白海ヲ望メルナラシ。崔溥ガ曰。高麗ノ時、濟州ヨリ大元ニ朝貢セシニ、颯風七晝夜ニテ白海ヲ過ギ、大洋ヲ渡ルトイヘリ。今幸ニ白海ノ中ニ入ルコトヲ得タレバ、竊ニ思フニ、唐土ノ城ニ近カラシ。汝等氣ヲ死ナスル事ナカレトイフ。暮ニ至リテ風又北ニナル。夜半ナラザルニ、大濤又打入テ、人々目ヲ開クコト能ハズ。崔溥モ我身ヲ船中ノ横木ニ縛ヘ附ケタリ。セメテノ事ニ死骸船ニ離レズ。何國ノ浦ヘモ打寄ラレ、毒魚ノ腮ヲ逃ル、事モヤト。思フヲセメテノ心トス。安義弓絃ヲ以テ自經ル。金粟コレヲ救フ。安義ノ時刀ヲ以テ、大鼓ノ片面ヲメク

リ。假ニ桶トナシ。巨伊山ニ授ゲテ。アカラカヘシム。

○八日陰ル。午過ニ西北風大ニ起ル。

○九日晴ル。片雲天ニ綴リ。海色彌白シ。數日ノ風波ニ船漸

ク損ズルヲ以テ。人々相對シテ泣ク。忽チ一羣ノ鷗有テ飛

過ク。船頭望ミ見テ悦テ曰。水鳥ハ晝ハ海上ニ遊ビ。夜ハ島

嶼ニ宿ス。今此鳥ヲ見ル事ヲ得ルカラハ。島嶼必ズ遠カラ

ジト。崔溥ガ曰。鷗ニモ數種アリ。海鷗トイフハ。大方海上ニ

飛翔シ。三月ノ節ニナレバ洲渚ニ還ル。今猶正月ナレバ鷗

ノ飛モ證拠トシ難シト。イヒモヲハラヌニ。又鷓鴣數十

飛來ル。コヽニ於テ崔溥モ或ハ洲渚ノ近カウニカト心頼

ミス。午ニ當テ南ヲ望メハ。雲氣重疊ニシテ。彷彿ニ山ノ容

ヲ見ル。其上人煙ノ氣アリ。心ニ以為ク琉球國ニテモアル

ベシト。須臾アツテ東風又起リ。船又西ニ向フ。

○十日雨フル。午ヨリ後ハ海ノ色却テ青シ。今日ニ至テ船

中ノ用水已ニ盡ク。用米モ先達テ海中へ打チ。飢渴俱ニ甚

シ。コヽニ於テ船中人々ノ包物ヲ開キ。吟味シ。柑五十。酒二

樽ヲ得タリ。孫孝子ニ命ジテコレヲ司ラシム。人々ニ平等ニ

此ヲ頒タシム。ホトナク此ニ物モ皆盡タリ。或ハ潮ニ浸レ

ル生米ヲカキ。面々ノ尿ヲ手ニ承テコレヲ飲ム。後ニハ尿

モ出ザレバ。喉ノ中煙ノウヅマク如クニ覺へ泣號トスレ

氏聲サへ出ズ。然ルニ今日雨降ニヨリ。皆々苔洩滴ニ喉ヲ
 潤シ。或ハ潮ノ浸サル衣裳ヲ以テ雨ヲ承ケ。絞テコレヲ
 飲ム。崔溥ソノ衣裳三ツ四ツヲ取出シ。雨ヲ承ケ絞テ其汁
 ヲ取り。コレヲ器ニ蓄ヘ。金重ニ命ジテ。ヒニスクヒースク
 ヒヅ、コレヲ飲シム。金重一度ヒヲ執レバ。船中ノ人一度
 ニ口ヲ開テコレヲ飲トス。宛モ鳥ノ雛ヲ多ク籠ヘ入レ。コ
 レニ餌ヲ与フルニ似タリ。コレヨリシテ船中ノ人聊カ命
 ヲ惜ムノ心イテキヌ。

十一日陰ル。早朝ニ一ツノ島ニ至ル。高以福トイフモノ。
 裸ニナツテ水中ニ跳リ入り。船ニ組シテコレヲ引岸ニ倚
 テ船ヲ撃ク。幸ニ清キ流ノ谷川アリ。人々厭マテ美水ヲ飲
 ム事ヲ得タリ。ナヲ飯ヲ作テ食トイフ。久シク饑罷レテ晝
 ニ飽食スレバ。多クハ死ストイヒ傳ヘタルヲ以テ薄粥ヲ
 作テ食ハシム。

十二日下チ陰リ乍チ雨フル。海色却テ白シ。唐土ノ浙江
 省ノ管内寧波府ノ海上へ漂着ス。寧波府ハ即チ明州ノ津。暮ニ一ツノ
 島ニ至ル。屏風ヲ開キ立タルガ如シ。遙ニ二艘ノ船アリ。崔
 溥ガ船ニ向テ推來ル。程保ガ曰。凡ソ何事モ臨時ノ宜キア
 リ。今日御忌中ナレ氏。假ニ平生ノ冠服ヲ着ラレ。官人ノ威
 儀ヲ正シ夕マヘ。然ラズバ。彼或ハ我ヲ以テ海賊トシテ取

辱ヲ与ヘソロベシト。崔溥理窟ライフテ其言ニ從ハズ。須
史アツテ。彼船次第ニ相近ク。一艘ニ十餘人程乘レリ。手拭
ヲ以テ頭髮ヲ裹ムモノアリ。笥笠ヲ着タルモノ有リ。何ヤ
ラニ喧シクイヘ凡。語音通セズ。崔溥心ニ以為ク。大方唐土
人ニテ有ルベシト。乃チ程保ヲシテ紙ニ書テ贈ラシメテ
曰。朝鮮國ノ臣崔溥。風ニ遇テ漂着ス。コノハ何レノ國ノ地
ゾ。カノ者書テ答テ曰。大唐國寧波府地方ゾ。又曰。本國へ歸
リ去ニト思ハズ。大唐へ來ルベシト。程保手ヲ以テ其口ヲ
指ガス。ソノ時カノ者共清水ヲ贈リ。船ニ棹サシテ東ニ去
ル。

考曰。凡ソ凡例ニイフトヲリ。崔溥ガ唐土人トノ問答悉
ク筆語ゾ。ソノ中ニモ口語セシ所ハ。コレハ筆語ニ非ス
ト理リラク。

崔溥衆人ニ命ジテ。船ヲ一ツノ崑へ漕入シム。須史アツテ。
船又一艘來ル。七八人乗レリ。其衣服語音先ニ見タル者ト
同ジ。問テ曰。汝コレ何ソノ人ゾ。崔溥又程保ニ云付テ。答シ
ムルコト前ニ同ジ。尚又問テ曰。コノハ何レノ地ゾ。彼人一
ツノ島ヲ指ザシテ答テ曰。大唐寧波府ノ地ニテ下山トイ
フ所ゾ。頃風ナウバ二日ニハ汝ガ國へ歸リ去ルベシト。崔
溥乃チ名苗氏ヲ問フ。曰。林大トイフ者ゾ。汝大唐へ行ハ連

テ行ベシ。汝寶貨有ラバ。我ニ贈ルベシト。崔溥答テ曰。我使
ヲ奉ズル臣タリ。商賈ノ類ニ非ズ。其上漂流浮沈ノ後。ナニ
トシテ宝貨アラニヤト。糧米ヲ分テコレニ贈ル。ソノ人受
テ又曰。此山船ヲ繫シニ宜シカラズト。崔溥ガ船ヲ牽テ一
ツノ島ニ繫シム。崔溥并ニ一船ノ人。數日ノ飢渴疲勞ニ心
神弱リ。前後モ知ラズ寐入リタルニ。夜四ツ頃ニ。カノ林大
トイヒシモノ。究強ノ徒黨廿餘人ヲ引連テ。手ニ手ニ弓矢
鎗眉尖カヲ携ヘ松明ヲ燃シテ。崔溥ガ船ヘ乘リ移ル。カノ
賊ノ頭ナル者ノ曰。我ハコレ觀音佛。汝ガ胷中ヲ見スカシ
タリ。汝ガ貯ヘタル金銀ヲコ、一出セヨト云。崔溥ガ曰。金

銀ハ本國ノ産スル所ニ非ズ。初ヨリ持參シタルコトナシ
ト云。賊ソノ時ソノ黨ヲシテ。崔溥并ニ四十二人ノ衣服諸
道具糧米マデ。已ガ船ニ積シム。殘ル所ノ物ハ。潮ニ浸レル
衣服ト。帳面書物ノ類ニ過ズ。朝鮮國ノ印ト馬牌トハ竒フ
シテ乞戻セリ。既ニ船ヲ出セルガ。又引返シテ船中ヘ入り。
先ツ程保ヲ裸ニシ縛テコレヲ杖ウツテ曰。汝若シ命ヲ惜
マハ。金銀ヲ出セ。崔溥大ニ號テ曰。タトヒ殺サル、トモ争
デカ無キ所ノ物ヲ出サンヤ。賊崔溥ガ言葉ニ通セズ。紙ヲ
出シテコレヲ書シム。崔溥書了ル。賊大ニ怒リ。刀ヲ拔テ崔
溥カ首ヲ斬ル。手ノ内譜テ右ノ肩先ヲ胸打ス。又振上ル所

ヲ一賊來テコレヲ沮ム。船中ノ者共只ワナ、キイタルバ
 カリ。ソノ内ニ金重巨伊山二人ハ。賊ノ前ニ跪キ賊ヲ拜ミ。
 崔溥カ命ヲ助ケニコトヲ乞フ。ソノ時賊崔溥ヲ蹴散シテ。
 ソノ徒黨ヲ引連レテ。己ガ船ニ乗移リ。崔溥ガ船ノ鉄猫綱
 ヲ切り放シ。己ガ船ヲ以テ。崔溥ガ船ヲ牽テ。大海中へ牽出
 シ。其後我船ヲ漕テカヘリ去レリ。不便トイフモ餘リアリ。
 ○十三日陰ル。又海中ニ漂流ス。西北風大ニ起ル。崔溥并ニ
 船中ノ人ノ衣裳ハ。己ニ賊ノ為ニ奪ル。身ニ着タル所ハ。久
 シク潮ニ浸サレ。天氣サヘ暗ザレハ。日ニ曬スコトモナラ
 ス。糧米モ奪ヒ取ラレ。鉄猫綱ハ切レ。席帆ハ風ノ為ニ破ラ

レタレハ。再ヒ活命ノ望ミハ絶タリトイフベシ。
 ○十四日暗ル。夕方一ツノ島ニ漂ヒイタル。船ノ下積シタ
 ル石ヲ索ヲ以テク、ツテ。假ノ鉄猫トシテ懸タリ。
 ○十五日陰ル。海色赤シテ濁ル。初メ海ニ漂シヨリ。今日ニ
 至ル。テ。始終卧シテ少シノ用ヲモ勤メザルモノハ。高保
 終梁連海高廻金朝廻任山海等五人。始終少シノ懈リモ無
 ク勤キシモノハ。許尚理權山金高面金仇叱。廻崔巨伊山金
 都終高以福文廻玄山韓每山權松莫金程保金重李楨孫孝
 子李孝枝安義十八人ニテゾ有ケル。
 ○十六日陰ル。牛頭ノ外洋ニ漂着ス。海色赤ク黒ク

シテ濁ル。遙ニ西ヲ望メハ。山幾重トモナク重レリ。天ヲ撐
 へ海ヲ包メリ。次第ニ近ツケバ。山上ニ烽火臺多ク連レリ。
 午過ヨリ雨強ク降ル。ニツノ島ノ間ニ漂ヒ至ル。軍船ト覺
 レクテ。遙アナタヨリ漕来ル。程保等崔溥ヲ勸メ。喪服ヲ脱
 テ衣冠ヲ着シム。崔溥從ハズ。安義ガ曰。某ニ暫ク衣冠ヲ借
 レタマへ。御名代ヲ仕ラント。崔溥又拒テ聽入ス。間モ無ク
 カノ六艘ノ船。崔溥ガ船ヲツトリ卷ク。一艘ニハ九人ツ
 乗タリ。其出立モノイヒハ。共ニ下山ニテ逢シ所ノ海賊
 ニ同ジ。彼者問テ曰。汝ガ輩イツレノ國ヨリ来ル。崔溥又程
 保ヲシテ答シメテ曰。朝鮮國ノ官人。公用ニ因テ海東ヲ巡

見シ。喪ニ奔リ海ヲ過キ。風ニ逢テ漂着ス。コノ所ハ何レノ
 國ゾヤ。カノ者答テ曰。牛頭ノ外洋トイフ。大唐國台州府臨
 海ノ地面ゾ。程保手ヲ以テソノ口ヲ指ス。カノ者一桶ノ水
 ヲ以テ來リ贈ル。又北方ノ山ヲ指シテ曰。彼山ニ泉アリ。汲
 取テ飯ヲ作ルベシ。汝胡椒有ラバ我ニ二三升ヲ予ヘヨ。崔
 溥ガ曰。本國胡椒ヲ産セズ。勿論持參致サズ。彼者トモ終ニ
 船ヲ漕返リ。遠卷ニ崔溥ガ船ヲ打圍ミテ守ル氣色アリ。崔
 溥ガ船モ岸ニ倚テ懸タリ。崔溥ソノ時安義巨伊山尚理等
 ヲシテ。山ニ登テ四方ヲ望マシムレバ。果シテコレ陸ニ續
 ケル所ニテアリケル。

○十七日雨フル。夜ノ明方ニ彼六艘ノ船。又漕来リ。崔溥等
 ニ向テ曰。汝ヲ見ルニ。亦是ヨキ人ソ。我ニ連ラレテ行ベシ。
 汝貨物アラバ我ニ贈リ予ヘヨト。崔溥ガ曰。久シク海中ニ
 漂流ス。持參セシ所ノモノハ。悉ク海中ヘ投入タリ。今ハ空
 船ニノリタルバカリゾ。一人ノ曰。コノ所又官府ニ近シ。汝
 ニカフト思ハ。無造作ナルゾ。崔溥官路ノ遠近ヲ問フ。一
 人ノ曰。台州府コノ所ヲ距ルコト十八里。一人ノ曰。二十四
 里。全体カノ者共ノ目ツキソブリ。甚恠ムベシ。安義ガ曰。先
 ツ何ニモセヨ。カノ者ニ從フテ行クベシ。李楨ガ曰。一人ヲ
 打殺シテコレヲ追散サニ。崔溥兩大カラ聽入ズ。カノ者共

ニ語テ曰。予漂流日久シク。飢渴疲勞甚シ。願クハ飯ヲ作り
 飢ヲ凌ギ。其後從ヒ行ベシ。カノ者共コノ時船ヲ一二丁バ
 カリ漕ノケ。打圍テ鉄猫ヲ入タリ。抗節兩強ク降出ケレバ。
 皆ク船屋形ニ入タル氣色遙ニ見ユ。崔溥ソノ時船中ノ人
 ニ謂テ曰。カノ輩ノモノイヒソブリ。甚恠シ。久シク船ニ居
 ラバ。必ズカレラガタメニ害セラルベシ。コノ山既ニ陸地
 ヘ續キタレバ。遠カラザルニ人衆アラシ。彼等ガ見サル内
 ニ逃レサルベシトイヒテ潛ニ船ヨリ上リ。勝手モシラヌ
 山路ヲ。足ニ任セテ逃テ行ク。抗節兩倍強ク。泥ニ込リ石ニ
 躓キ。前ニハ如何ナルモノヤ待ラシ。後ヨリハ追手ヤ掛

新和言卷之二
又ラント。千辛万苦言方ナシ。漸クニニツノ嶺ヲ越テ。一ツノ村ニ夕トリ着ク。崔溥諸人ニ向テ曰。四十三人。今日一体ニ同ジ。患難疾病相救ヘ奔走ノ時トイヘドモ。礼節ヲ失フコトナクシテ。吾國ハモト礼義ノ國ナルコトヲ知ラシメヨトイフ。既ニ村中ニ至レバ。アツマリ見ルモノ甚衆シ。中ニモサモトラレキモノ二人アリ。崔溥等ニ問テ曰。汝コレ朝鮮國ノ人。何ニヨツテ吾國ニ来ル貢ヲ奉ルモノカ。若クハ盜賊カ。若クハ漂流ノ者カ。逐一ニ書付見セヨト。崔溥ソノ時事ノ由ヲ書示シ。又印信冠帶文書ヲ出シテコレニ示ス。カノ二人崔溥等諸人拜跪ノ次第アルヲ見テ。崔溥ニ謂

テ曰。貴國ハ礼義ノ國ト聞ク事久シ。果シテ聞ク所ニタカハズトイフテ稱美シ。家来ヲ呼ヨセ。米醬藥酒ヲ取ヨセテ。四十三人ニ各望ニ從テ飲食セシム。村中ノ一ツノ艸庵ヲ指ガシテ曰。此中ニ入テ休息セラレヨト。崔溥等艸庵ヘ入り。沾タル衣裳ヲ脱テ風ニアテ。休息シタリ。程ナクカノ二人飯ヲナシテ来リ贈ル。崔溥ニ謂テ曰。定テ草卧ラレタラシテ。然レドモ今少し歩ミ行ルベシ。崔溥已ムコトヲ得ズシテ出テ。コク道甚泥濘。日モ暮ニ及ブ。村中ノ者杖棒ヲ持テ鉦大鼓ヲ鳴シ。前後左右ヲ取圍ミ。追立行ク。ソレヨリ段々村送ニテ。五里許リ行キタレバ。夜ハ已ニ半ニ過タリ。

○十八日大ニ雨フル。崔溥等村送りニ追立ラレ行。道ニ一ツノ高キ阜ヲ過ク。松竹陰ヲ交ヘ。柴ノ麻ヲ半掩テ由アリゲナル家アリ。其内ヨリ王乙源ト名ル者。崔溥等ガ形勢ヲ見テ憐ミ。村ノ者共ニコトハリテ。崔溥ガ手ヲ把リ延テ其家ニ入レ。飲食ヲ進ム。蓋シ儒者ニシテ。光ヲ韜ミ徳ヲ隠シテスメル。真ノ大隱者ニテゾ有ケル。

考曰。凡ソ海ノ傍山ノ奥ニ住ミ。人ニ名ヲ知レザルモノニゾ。真ノ大君子。大豪傑ハ有ナレ。通都大邑ニ住ミ。人ニ名ヲ知ル。ノ輩ハ。儒者モ隱者モ。十ガ九ハ。馴。僧。光棍トイフベシ。其術ノエミナルト。エミナラザルト。名聞ニ出

ルト。貪欲ヲ本トスルトノ違ヒハアレドモ。所謂五十歩百歩トイフベシ。

崔溥等カノ乙源ニ暇ヲ乞テ。又追立ラレ行コト二里許リ。一ツノ村ニ至ル。大ナル橋アリ。村ノ者トモ。崔溥等ヲ打擲スルコト甚シク。崔溥ガ馬鞍ヲ奪取ル。地名ヲハ仙巖里トイヘルトカヤ。夜ノ明方ニ。蒲峯里トイフ所ニ至ル。一官人アリ。供人數多具シテ來ル。問テ曰。汝コレ何國ノ人ゾ。崔溥云ク。ノ譯ヲ答フ。其時官人飯粥ナドヲ出シテ食シム。此人ハ海門衛ノ千戸官ニテ。許清トイヘル人トゾ。

考曰。凡ソ衛トイヒ。所トイフハ。皆明朝ニテ武官ノ聚リ

居ルトコロゾ。衛モ所モ。此方ニテイフ城下ノコト、心得テヨシ。万戸千戸トモニ武官ゾ。

許清崔溥等ヲ引マトヒ。追立テ行ク。崔溥既ニ神心勞シ。一歩モ進ムコトナラズ。四十三人ノ中ニテ。李楨孝枝尚理玄山ノ四人ハ。身健ニ心正キ者ナレバ。カタミカハリニ崔溥ヲ背ヲヒツ。山ヲ過キ谷ヲ踰テ。又三里許リ行クニ。一ツノ所ニ至ル。家居モ多ク賑ハシク見ユ。許清其所ニ一宿セニト欲スレドモ。所ノ者合點セズ。又一ツノ嶺ヲ過テ。夜四ツ頃ニ一ツノ河ノ邊ニ出タリ。李楨等モ尔皆力盡テ。崔溥ヲ背ヲフコトナラズ。皆く河邊ニヒレ卧シテ居タリ。須臾

有テ又一ノ武官ヲシキモノ至ル。甲冑ヲ帶シ。劔ヲ佩ビ鎗ヲ手ニシテ。軍兵百許ヲ從フ。鳥銃ヲ打チ角ヲ吹キ。今モ敵ニ打逢トスル時ノ如シ。許清ト何ヤランシバラク談シ合テ。ソレヨリ兩人打連レ。無理ニ崔溥ヲ追立テ行コトナ丁許リ。一ツノ大ナル家ニ至ル。城構ノ如シ。蓋シ批驗所トイフ。カノ甲冑ヲ帶セシ人ハ。挑渚所ノ千戸官。何某ニテゾ有リシ。

考曰。挑渚所ハ海手究竟ノ要害ノ場所ニテ。專ラ海寇ヲ防ク爲ニ立タリ。詳ニ武備志ニ見ユ。

唐土行程記卷之一終

平安 木 誼

備前 高 潤

播磨 堀 榮吉 同枚

平安 窪田 恭

姪 伊藤聖訓

Vertical columns of faint handwritten text in a grid format, likely bleed-through from the reverse side of the page.



